

〈解答〉

- 1 1 A [例] 貧しかった (5字)
 B 壁に穴を開け、隣の家の明かりを引き入れる (20字)
 2 したがいやとわかれて
 3 (1) (最初) 家おほ (最後) たる人 (完答)
 (2) [例] 匡衡が仕事をした分のお金を受け取らない (こと。) (19字)
 4 ウ

配点 1 2、3 (1)は各1点、他は各2点 10点満点

〈解説〉

- 1 「実語教童子教諺解」は、庶民のための教訓を中心とした初等教科書である「実語教」「童子教」という二つの書物の注釈書で、江戸時代前期、恵空という僧によって著された。
- 1 A [例] には、匡衡が明かりをとすための油を買えなかった理由が入る。また、B [例] には、書物を読むために匡衡がしたことが入る。
- 2 古文に出てくる語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、それぞれ「わ・い・う・え・お」に直す。よって、「ひ」を「い」に、「は」を「わ」に直せばよい。
- 3 (1) 匡衡を雇っていたのは「家おほく富みて、書をあまた持ちたる人(＝家がとても豊かで、書物を数多く持っていた人)」である。
 (2) 傍線②の直前に、「かつて値を取らざるゆゑ(＝まったく給与を受け取らなかったため)」とあるのに注目する。つまり、匡衡が、仕事をした分の給与を受け取らなかったため、主人は不審に思ったのである。
- 4 ア 「匡衡は、人に書物を貸してお金を作り」、イ「書物を読まないでほしいという匡衡の願いが主人を感動させ」、エ「匡衡は、人目を避けて暮らし」の部分が適当ではない。
- 〔現代語訳〕
 匡衡は、普段から学問に励んでいたが、家が貧しかったため(書物を読むための)灯火が(家に)なかった。隣の家には灯火があつたが、(その明かりは、匡衡の家には届かなかった。そこで匡衡は、(自分の家の)西側の壁を削って穴を開けて、その隣の(家の)明かりを(自分の家に)引いてきて書物を読んだ。
 (匡衡が暮らす)その里に、家がとても豊かで、書物を数多く持っていた人がいた。匡衡は、この人に雇われて、仕事をした。しかし、(匡衡が)まったく給与を受け取らなかったため、主人は不審に思つて、その理由を尋ねたところ、匡衡が言うには、「どうか、あなた(がお持ち)の書物を読ませていただきたいというのが、私の望みです」と(言う)。主人は、その(勉強熱心な匡衡の)心に感動して、書物を貸して(仕事の)給料の代わりとした。結局その後、匡衡は世の中に広く知れ渡る学者となった。